



JINAIMACHI KAWARABAN Vol. 53

瓦版 / 53号

題字 / 柳本 賢吾さん 10歳 (北会所町)

まもり・そだてる会 理事研修会〈京都嵯峨鳥居本〉

二日前の秋祭りとはガラリと変わり、雨も風も強い寒い位の十月二十三日(火)、理事と文化財課の森口さんを含めた十四名は九時五十分、バスで京都嵯峨鳥居本(さがと)に到着。市役所第二駐車場を出発した。十一時三十分渡月橋近くの嵐山に到着。冷たい雨が降る平日だというのに観光バスの学生や一般観光客で混雑している。早々に昼食を済ませ懇談会会場に向かった。



京都市嵯峨鳥居本の町並み

会場の「京都市嵯峨鳥居本町並み保存館」は、バスと徒歩を含めて嵐山からわずか十分位の場所にあった。しかし辺りは先ほどの喧騒がうそのように静かで、山裾にある石畳の道の両側には虫籠窓や茅葺の家などが繋がる愛宕神社の門前町として発達した趣がある集落だった。

予定より早く着いたので、会場の「鳥居本町並み保存館」から見学する。建物は明治初期の京町屋で、民間の放置されていた伝統的建造物を土地とともに京都市が借り受け修復整備を行ったもので、指定管理者制度で地元の嵯峨保勝会の皆さんが運営されている。会の方から保存館内部の説明や館内に置いてある昭和初期の姿に復元した町並み全体の模型(現在バス道になっている清滝街道は嵐山から清滝を結ぶ鉄道があったが昭和十九年戦争の為にレール等の鉄材を供出させられ廃線撤去された)と茅葺民家(平野屋)の内部まで説明する大型模型二点の説明を受ける。

そのうち市役所から来られた二人と共に懇談会。京都市の景観政策課の浅田さんから、嵯峨鳥居本をはじめ京都市にある他の三つの重伝建保存地区(産寧坂・祇園新橋・上賀茂)に対する考え、鳥居本の担当者である藤野さんからは現状を聞く。



続いて保勝会の方から取り組みを聞く。特に「化野念仏時の千灯供養」に合わせて行われる「愛宕古道街道灯し(あたごこうどうとうし)」は灯籠を使った行事の為、質問が続いた。灯籠は保勝会の年会費(一万二千元)の一部と「灯り(あかり)」の協力費三千元を使って、和紙を使い、絵は個人のほか、地元小学校の六年生や、嵯峨芸術大学の学生の手に為るもの。丈夫な和紙の「灯り」の三日間は飾ったままにしていても雨が降っても大丈夫だという。私達の十倍もの会費や「灯り」の負担金で、高価な和紙の使用を可能にしている事を知る。又、鳥居本に人を呼ぶ方法として「保存館」を会場とした食事付のワークショップも行って等、地元に対する保勝会の方々の思いを熱く話された。交流会は質問も多く、一時間の予定が一時間にもなった。その後、浅田さん達の案内で保存地区を見学。一之鳥居付近までは、茅葺の農家風の民家があり、懇談会で質問のあった防災の一つの小型消火栓は、竹で作った塀に溶け込んでいた。続いて化野(あたご)念仏寺より下の方の見学をした後、鳥居本に別れを告げ、錦市場を二十分ほど見学し、四時四十分バスで帰途についた。

「幾世代にもわたって育まれた優れた景観を都市の資産として将来に残す」という行政と、その土地で商いをされている方々の思いに差のあるのを感じた。私にとつての「まもり・そだてる会」は、そこに居住している町会の延長だった。しかし、今回の研修は重伝建保存地区に住む一人として、どうしたのかを考える機会となった。そのような事をバスに揺られながら考えていると、午後六時、雨もあがり半月のきれいな第二駐車場に無事降り着いた。(芝本重子)



愛宕神社一之鳥居の下で

富田林寺内町の文化と伝統 山上参りの体験記

山上参りとは、大峰山系の一つで修験道の聖地である山上が岳(1719m)にお参りすることであり、かつては男子が10歳ぐらいになれば修行のために参りしたものであった。私が小学校4年(昭和36年)の時、戸谷のおじさんたちで行ったのが、今も1年に3回は登っている。最初の山上参りでした。もともとは、山上参りという言葉も意味もわからず、ただ山に登るんだというぐらいいいことでした。5月の中旬だったでしょう。吉野行の一番電車に乗って下市口まで行き、そこからバスで洞川温泉へ行くのですが、各駅停車であるのと、未整備の狭い山道のバスでの道中は、おそろしく時間がかかったように思いました。

一行は40人50人ぐらいいい、すべて先代で故人の大惣の橋川巳代治さん、船嘉の入船盛治さん、中林ふとん店の中林福治さん、戸谷旅館の戸谷一雄さんらがおられたと思います。旅館に着いて一服した後、いよいよ山に登るのですが、女人禁制を掲げている鳥居をくぐる前に般若心経を唱えていよいよ修行の始まりです。

15分ほど登ると、最初の小屋が見えてきます。「一の茶屋」です。登り始めてすぐで疲れてもいないので通過です。さらに登っていくと「一本松茶屋」そして中間地点の「洞辻(どろつじ)茶屋」があります。当時は、今と違って身軽で元気いっぱいでした。そこでからはだんだん険しくなってきました。道は登りきると、そこに「お助け水」と書いてある湧き水が、小さな祠といっしょに設けられていました。文字通りお助け水で、たいへんおいしくて元気がでました。ますます険しくなる道を登ると、「陀羅尼助茶屋」が見えてきます。一番乗りだったよう、だれもいません。お茶屋の人に皆さんが来るまで待つようにと言われて待っていました。寒くてたまらなかつたのを思い出します。それもそのはず裏のトイレに行くと雪が残っていました。

しばらくして皆さんが着かれるときなり「新客」と称される今回が初めてのお参りの人全員に白い布でたすきをかけ、鉢巻をしてくれました。その格好のまま登っていくと、「鐘掛岩」というほぼ直立の岩を鎖をたぐって登ります。当時はやはり身軽だったので、苦もなく登れましたが、今は避けて回り道を登ります。

鐘掛岩を過ぎてしばらく登ると、いわゆる表行の行場である「西の覗(のぞき)」に着きました。そこは断崖絶壁に身を乗り出して絶壁に彫られている観音様を拝むという恐怖心を克服できるかの行です。もちろんロープを体にも結わえて支えてくれるのですが、と目を開けることさえできませんでした。私が身を乗り出している間、親に孝行するか、兄弟仲良くするか、うそをつかないかなどと言ってくるのです。早く引き上げてほしい一心で、必死に「はい」と言ったことを思い出します。表行を終えてしばらく登ると、山頂です。龍泉寺の宿坊で母が作ってくれたお弁当を食べるとすぐに「裏行」といって修行が始まります。(次号に続く。)

文中、誤りや記憶違いがあるかと思いますが、ご容赦願います。また間違いなどご指摘、ご教示いただければ幸いです。(和田孝雄)

「富田林寺内町をまもり・そだてる会」の新会員を募集しています!!

この町をさらに守り・育てていくために、お近くの方をお誘いください。m(_)_m

本年7月と8月に計2名の方が新会員に加入されました。
また8月に1名の方が準会員に加入されました。

「寺内町四季物語 2012 夏 第9回寺内町燈路」報告

今年の寺内町燈路(主催: 駅南地区まちづくり協議会、共催: 当会、観光協会)は8月25日(土)に実施されました。前日・前々日には夕立があり、実施が心配されましたが、当日は夕立に合う事もなく無事開催することができました。寺内町とその周辺には約1000基の行灯が並べられ、ローソクの灯りに美しい町並みが映し出されました。また同時開催の様々なイベントも実施され、約3700人の来場者(寺内町燈路実行委員会発表)で賑わいました。

お手伝い下さった方々、参加下さった方々、大変ありがとうございました。(企画事業部会)



「寺内町月見の夕べ2012」報告

今年は、台風の襲来を受け、「寺内町月見の夕べ2012」を予定日翌日の10月1日(月)に展望広場にて実施しました。当日は、台風一過とはいかず、曇り空の中での開催となりましたが、前半は屋内での「清永とおる」さんによるトーク&ギターライブがあり、皆で懐かしの歌を歌いました。後半になって庭に出ると、7時過ぎには雲の切れ目から、二上山と葛城山との間にまん丸いお月さまがくっきりと見え、用意した月見団子200個もほぼ無くなり、盛況の内に会を終えることができました。

お手伝い下さった方々、参加下さった方々、大変ありがとうございました。(企画事業部会)



富田林寺内町 来訪者 歓迎キャンペーン

こんにちは!

笑顔であいさつ

歓迎を

まもり・そだてる会活動報告

Table with 5 columns: 月, 日, 会議名, 内容, 場所. Lists various meetings and events from July to December.



左: ウェブサイト「富田林寺内町の探訪」のトップページ 上: サイト制作・管理者の奥谷直也氏近影

ウェブサイト「富田林寺内町の探訪」と制作者奥谷直也さんの紹介

パソコンやスマートフォンを使われている方は、よくご存知のことと思いますが、インターネット上に、富田林寺内町を紹介している、驚くほど内容豊かな「富田林寺内町の探訪」というウェブサイトがあります (http://www.5d.biglobe.ne.jp/~hentaage/index.html).

歴史文化博物館にして観光案内所 今では、当サイトは、奥谷直也さん個人によって管理・運営されている「富田林寺内町歴史・文化博物館にして観光案内所」とも呼ぶのがふさわしいホームページとなっております。

個人による管理運営について このような多数の写真を含むサイトは、膨大なデータ量を持ち、その維持・管理には奥谷さん個人にかなりの負担がかかっていると思われま

平成6年に「寺内町をまもり・そだてる会」が発足し、平成9年に富田林寺内町が国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された後、町は大きく変化してまいります。

しかし、寺内町の世帯数が約500世帯の内、「寺内町をまもり・そだてる会」の会員は約半数の254世帯でしかありません。

☆交流館だより☆ ◎ギャラリー展示予定 十一月一日〜十四日 鈴政千恵子 絵画と陶器

恒例の新春「鍋めぐり」 二月十六日〜二十一日 まもり・そだてる会 遊楽会 水墨画

編集雑感 富田林寺内町をまもり・そだてる会が発足し、平成9年に富田林寺内町が国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された後、町は大きく変化してまいります。

じないまち交流館 新職員紹介 8月から交流館のお手伝いをさせていただいている澤武です。

- 部会長 中井隆洋 副会長 和田孝雄 委員 岡田昌治, 和田幸雄, 柳本恵三, 西野哲夫, 戸田善一, 田中實